

第3章 原石山の調査

3.1 骨材に適した岩石

原石山を調査する目的は、骨材に適する岩石を選定することである。骨材に適する岩石は、堅硬で耐久性が高く、不純物が少なく均質なものでなければならない。しかし、岩石は、多様な鉱物の組合せによってできているため、多種多様である。原石とする岩石がどのようなものなのかを把握するためには、岩石全体の中で、どこに分類されているかを知る必要がある。

本節では、まず岩石や鉱物の分類などの基礎的な事項を記し、次に原石として多量に使われている主要な岩石の特徴・注目点について記述する。

3.1.1 岩石の分類

岩石の分類では、一般にはその成因によって、火成岩、堆積岩、変成岩に3大別される。以下、多数の文献^{1)~3)}を参考にして記述する。

火成岩とは、マグマ（岩石の高温溶融物）が冷却固結してできた岩石のことである。堆積岩とは、既存の岩石が風化して粒状になったものが湖沼や海中での堆積作用によって固結してできた岩石のことである。変成岩とは、既存の岩石が地下のかなり深いところで、熱や圧力による変成作用によってできた岩石のことである。これらの作用は、図3.1.1に示すように相互に循環する。

表3.1.1に、3つに大別した主要な岩石をまとめた一覧表を示す。また、採石法第2条の対象となる岩石は、表3.1.2に示すよ

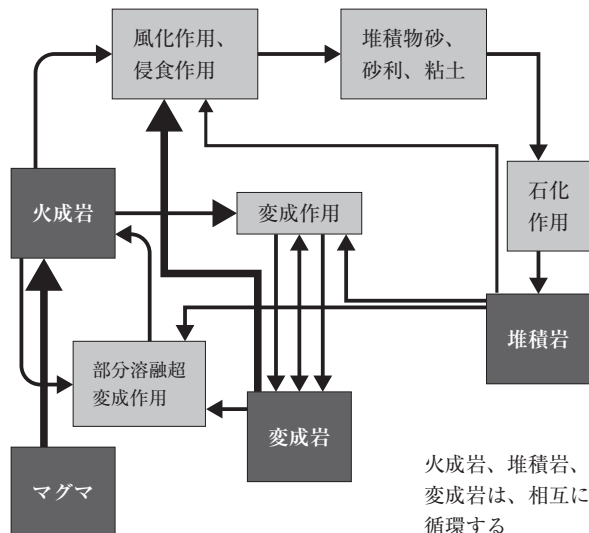
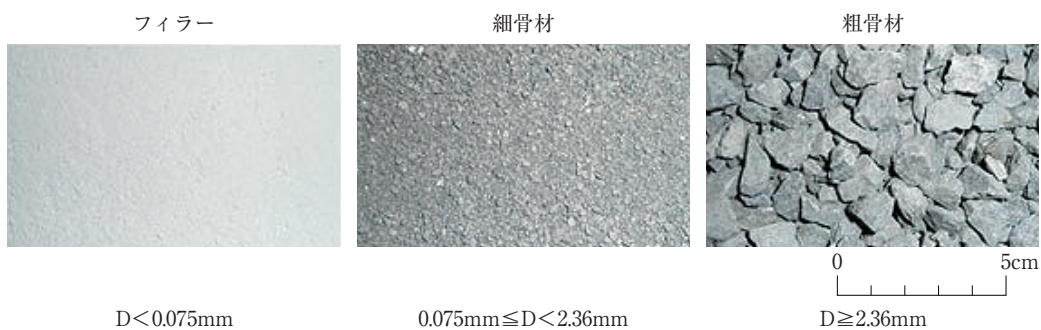


図3.1.1 岩石の循環



p.50

第2章 骨材の用途

図2.3.2 舗装用骨材



p.59

第3章 原石山の調査

図3.1.3 岩石の組織

p.127

第5章 採掘方法



図5.1.7 河川砂利・砂の採取状況